

整備の基本方針

民族共生象徴空間の中核施設となる博物館として以下の方針にて整備

- ポロト湖畔の自然景観等，周辺環境との調和
- アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点
- 国内外の多様な人々に向けたアイヌの歴史・文化等の発信拠点



施設概要

建設場所：北海道白老郡白老町若草町（民族共生象徴空間内）

延べ面積：約8,600㎡

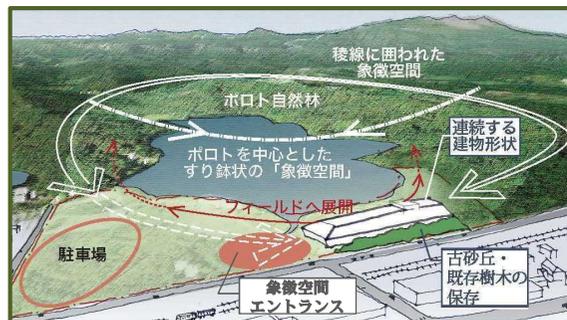
規模：地上3階

構造：鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄骨造

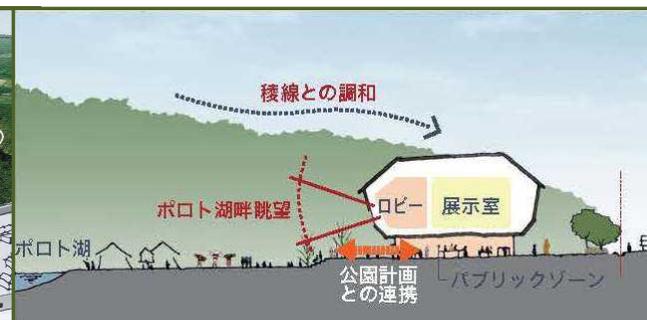
※国立民族共生公園内の施設等については別途設計を行っており，本イメージ図には含まれていない。

【基本方針①】
ポロト湖畔の自然景観等、周辺環境との調和

- 自然豊かなポロト湖畔周辺の景観との調和
 - ・ポロト湖畔周囲に広がる、すり鉢状の山並みや自然林とゆるやかに連続する建物形状
 - ・展示室ロビーにポロト湖畔が眺望できるスペースを確保
- 国立民族共生公園と一体となった魅力ある空間の創出
 - ・来館者が公園と相互に利用できるよう、公園入口側とポロト湖畔側にエントランスを設置



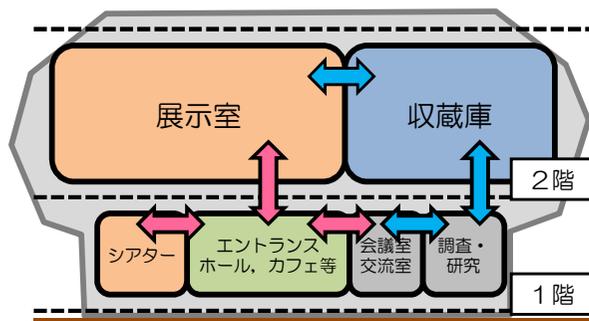
ポロト湖周辺の自然との調和



ポロト湖畔を眺望できる展示室ロビー

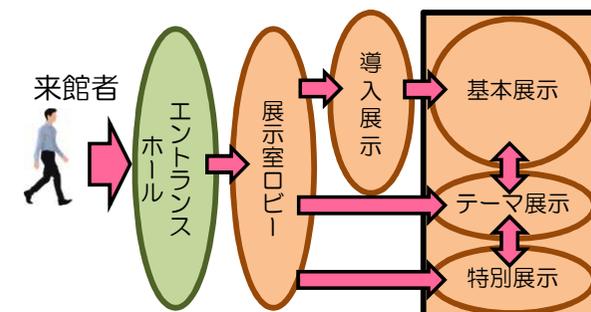
【基本方針②】
アイヌの歴史・文化等に関する正しい認識と理解を促進する展示・研究拠点

- 来館者がアイヌの歴史・文化に親しみやすい平面計画
 - ・展示室ロビーから導入展示を経て展示室へ導く、期待感を高められる動線計画
 - ・映像や音声でアイヌ文化を紹介するシアター、アイヌ文化の講座や講演会を行うスペースを用意
- 確実な資料保存や研究に必要な空間の確保
 - ・貴重な資料を展示、收藏するため、展示室や收藏庫の適切な環境を維持するとともに、調査・研究に必要なスペースを用意



断面構成

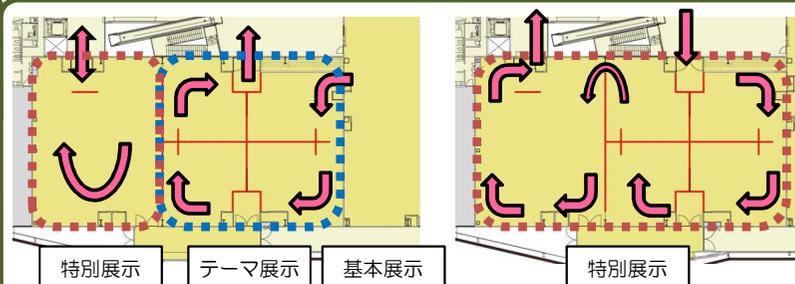
→ 来館者動線
⇄ 職員動線



展示室へ導く動線計画

【基本方針③】
国内外の多様な人々に向けた アイヌの歴史・文化等の発信拠点

- 展示替えに対応できる展示室
 - ・展示室に可動間仕切り壁を設置し、国内外の博物館等の資料による企画展・巡回展の展示替えに柔軟に対応
- 多言語対応、アイヌ文様の活用
 - ・アイヌ語、日本語、英語等多言語に対応したサイン（案内表示）計画
 - ・アイヌの伝統的な文様をエントランス周囲の外壁やガラス面に表現



特別展示・テーマ展示

特別展示（一体で使用）

展示替えに柔軟に対応できる展示室（例）



伝統的なアイヌ文様（例）



【 鳥瞰図（南面） 】

※本イメージ図は、基本設計段階における案であり、素材・色調等は実施設計により変更の可能性がある。
※国立民族共生公園内の施設等については別途設計を行っており、本イメージ図には含まれていない。



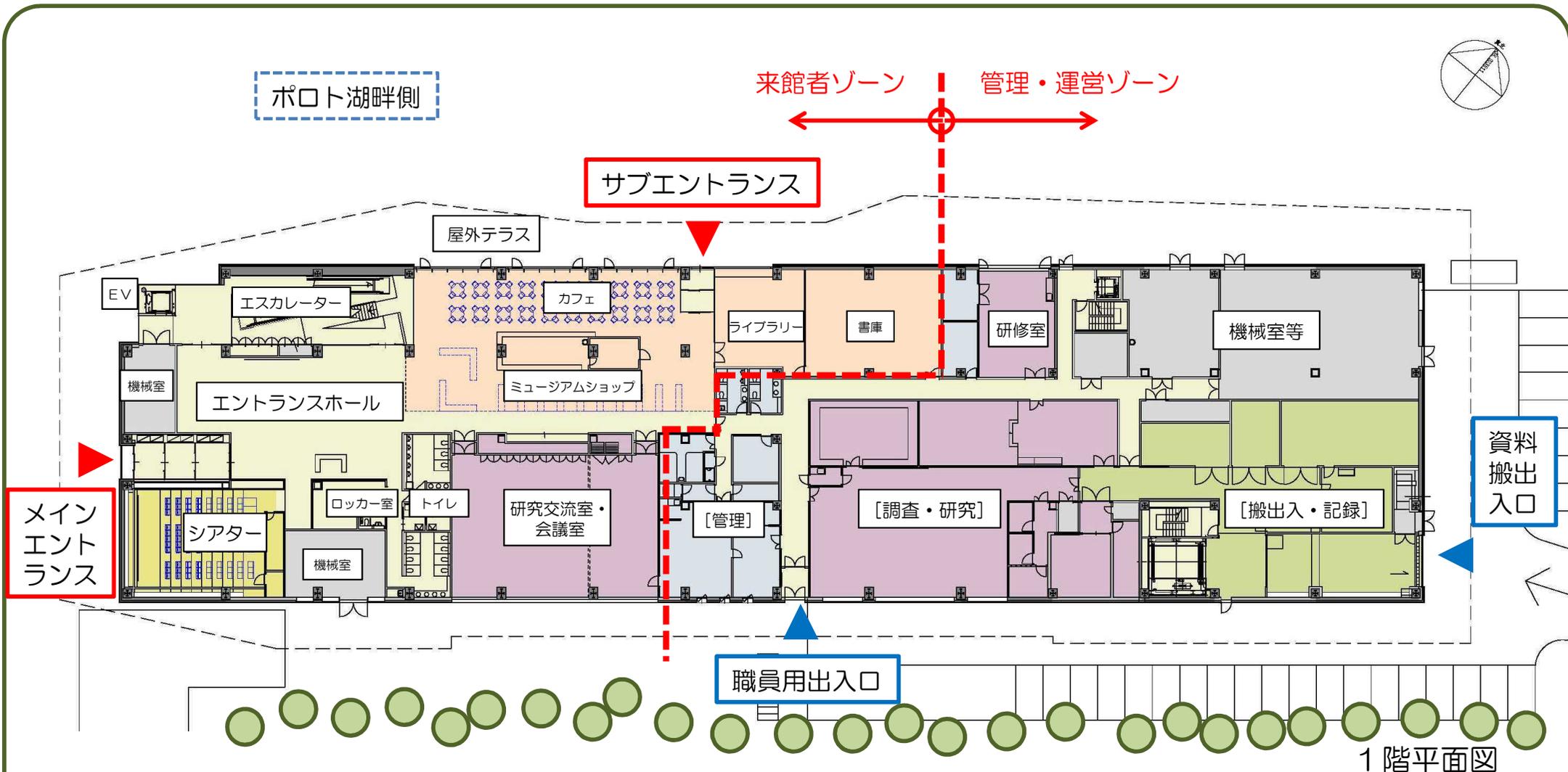
【 完成予想図① 】

※本イメージ図は、基本設計段階における案であり、素材・色調等は実施設計により変更の可能性がある。
※国立民族共生公園内の施設等については別途設計を行っており、本イメージ図には含まれていない。



【 完成予想図② 】

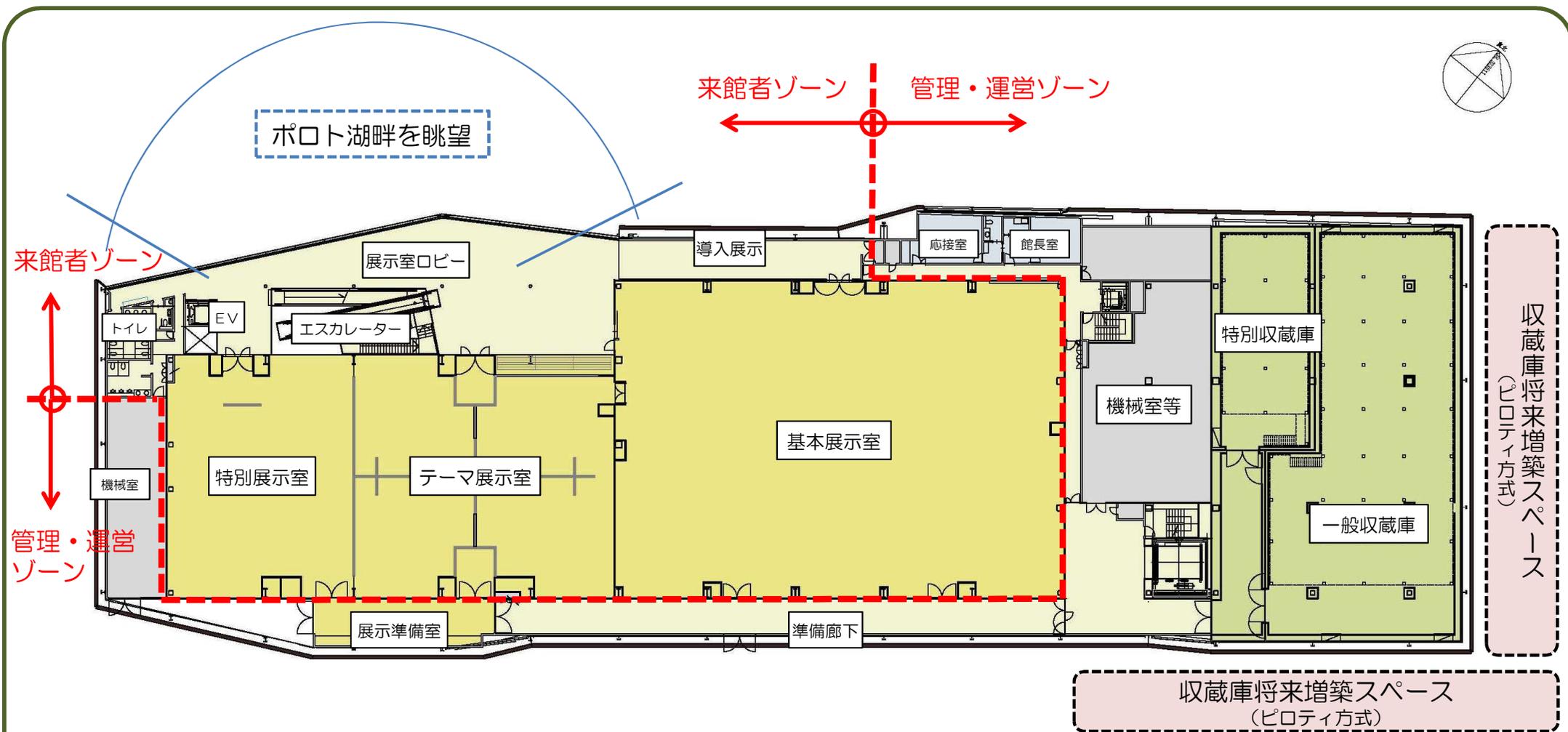
※本イメージ図は、基本設計段階における案であり、素材・色調等は実施設計により変更の可能性がある。
※国立民族共生公園内の施設等については別途設計を行っており、本イメージ図には含まれていない。



1階：来館者サービス，博物館の管理・運営部門を配置

シアター	映像や音声でアイヌ文化の概要等を紹介
カフェ，ミュージアムショップ	国立民族共生公園に隣接，公園来場者にも広く開放
研究交流室	アイヌ文化の講座や講演会などのほか，ガイダンスにも使用

※詳細は実施設計により変更の可能性がある。



2階平面図

2階：展示室，収蔵庫を集約

展示室ロビー	自然豊かなポロト湖畔を眺望できるロビー空間
展示室	テーマ展示室と特別展示室の間仕切を移動可能とするなど，様々な展示形態に対応
収蔵庫	収蔵庫の温湿度が一定となるよう管理を行い，貴重な展示・収蔵品の劣化を防止

3階は機械室を配置

※詳細は実施設計により変更の可能性がある。

展示の基本的な考え方

国内外の多様な人々に、アイヌ民族の歴史や文化を正しく学び、正しく理解する機会を提供するために、アイヌの歴史・文化等を総合的・一体的に展示する。

展示の形態

(1) 総合展示

- ① 基本展示室 (1,250㎡)
 - ・アイヌ文化等の基本的な事象を伝え、「私たちの～」という切り口の6テーマと導入展示及び子供向け展示で構成。
- ② テーマ展示室 (0～600㎡)
 - ・多様な切り口やテーマを一定期間紹介する展示。
 - ・可動壁により3～4室に分割できるようにし、特別展示との一体的な利用も可能とする。
- ③ シアター (150㎡)
 - ・映像や音声でアイヌ文化等の概要を紹介。
 - ・アイヌ文化を多様なテーマから取り上げ、映像や音声でわかりやすく紹介する。

(2) 特別展示室 (400～1,000㎡)

- ・特定のテーマや事象について最新の調査・研究の成果等を紹介。
- ・テーマ展示室との間仕切を移動可能とし、柔軟な展示空間を構成。

展示の対象とする地域・時代

- ・アイヌ民族が居住してきた北海道、サハリン（樺太）、千島、本州東北地方を中心に、周辺諸地域との関わりの中で醸成されてきたことに留意した展示を行う。
- ・旧石器時代から現代までを対象とし、周辺の人々との交流を含めた広がりの中で多面的に取り上げる。

展示の特色

- ・最新の情報を公開できるよう可変的な展示形態や展示システム。
- ・館内の解説パネルやサイン（案内表示）には、アイヌ語、日本語、英語等多言語に対応。
- ・ユニバーサルデザインに配慮し、あらゆる人に開かれた展示環境を実現。
- ・国内外の博物館とのネットワークをいかした展示会などを企画・実施。

展示室の環境

- (1) 天井高・床など：天井高は6～7m程度を確保し、展示更新が容易な環境。
- (2) 照明・外光：資料に影響を与えない保存環境やメンテナンス性を考慮。
- (3) 空調：展示資料に影響を与えない最適な温湿度を維持。

基本展示室のゾーニング

- 基本展示室の冒頭に「導入展示」を配置し、アイヌ文化に対するイメージや親しみを喚起する。
- 代表的な資料を通してアイヌ文化を一望できる「プラザ」を配置する。
- アイヌの人々の視点で語る「6つのテーマ」に沿って、過去から現代までを一體的に紹介する。

導入展示

- 来館者の期待感を高めながら展示室にいざなう

プラザ

- 各テーマの代表的な資料を更新しながら展示し、アイヌ文化の概要を紹介する

私たちのことば

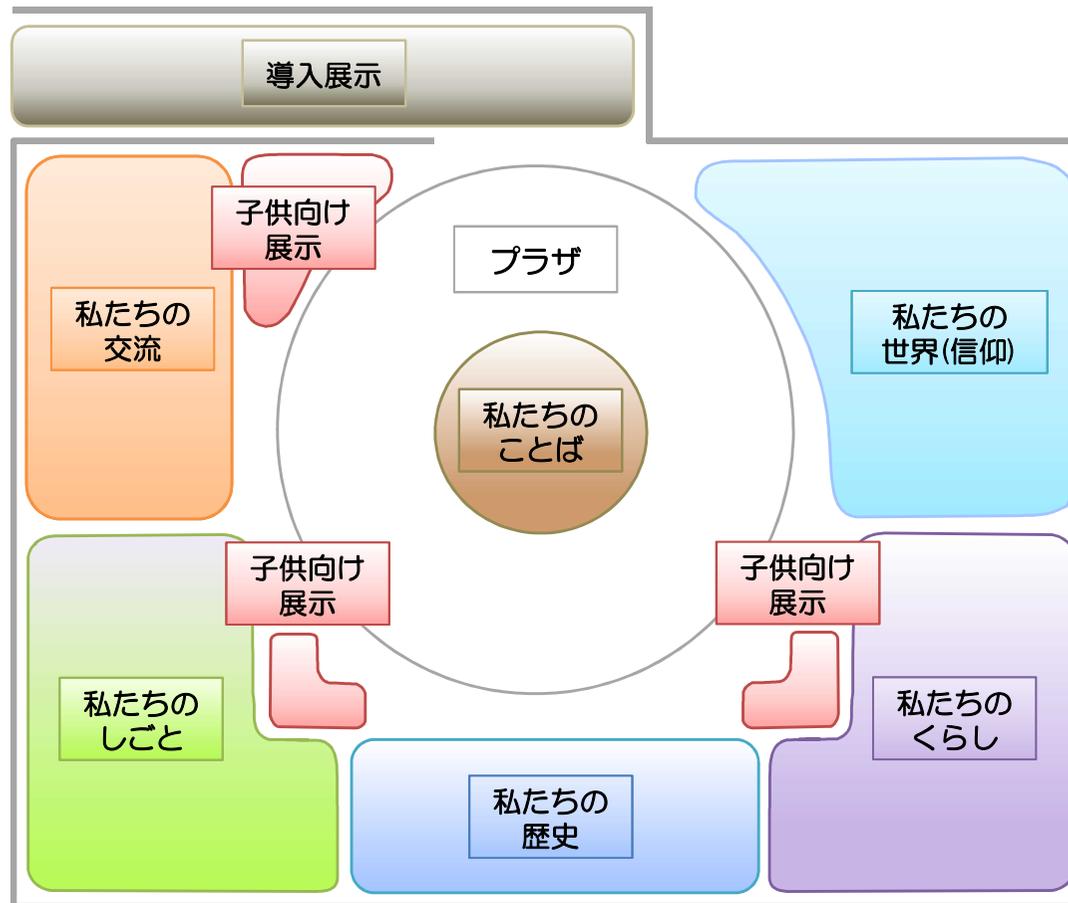
- アイヌ語の基礎的な構造、地域差、地名、周辺諸言語との関係、言語復興の取組等を紹介する

私たちの交流

- 生活の中の交易品等から周辺諸民族との交流の足跡をたどるとともに、近年の先住民族同士の交流を通して、日本における多文化共生の在り方等を伝える

私たちのしごと

- 伝統的な生業活動や、近代化の中で多様化していくしごとを広く紹介し、伝統文化が変化しつつも現代にまで継承されていること等を伝える



私たちの世界（信仰）

- アイヌの宗教（信仰）を理解するためにカムイ（神）の考え方や自然観、死生観等を中心に紹介する

私たちの暮らし

- 衣食住、人の一生、音楽や舞踊等について多面的に取り上げ、アイヌ文化の特色や地域差、伝承に携わる人々の取り組みを紹介する

私たちの歴史

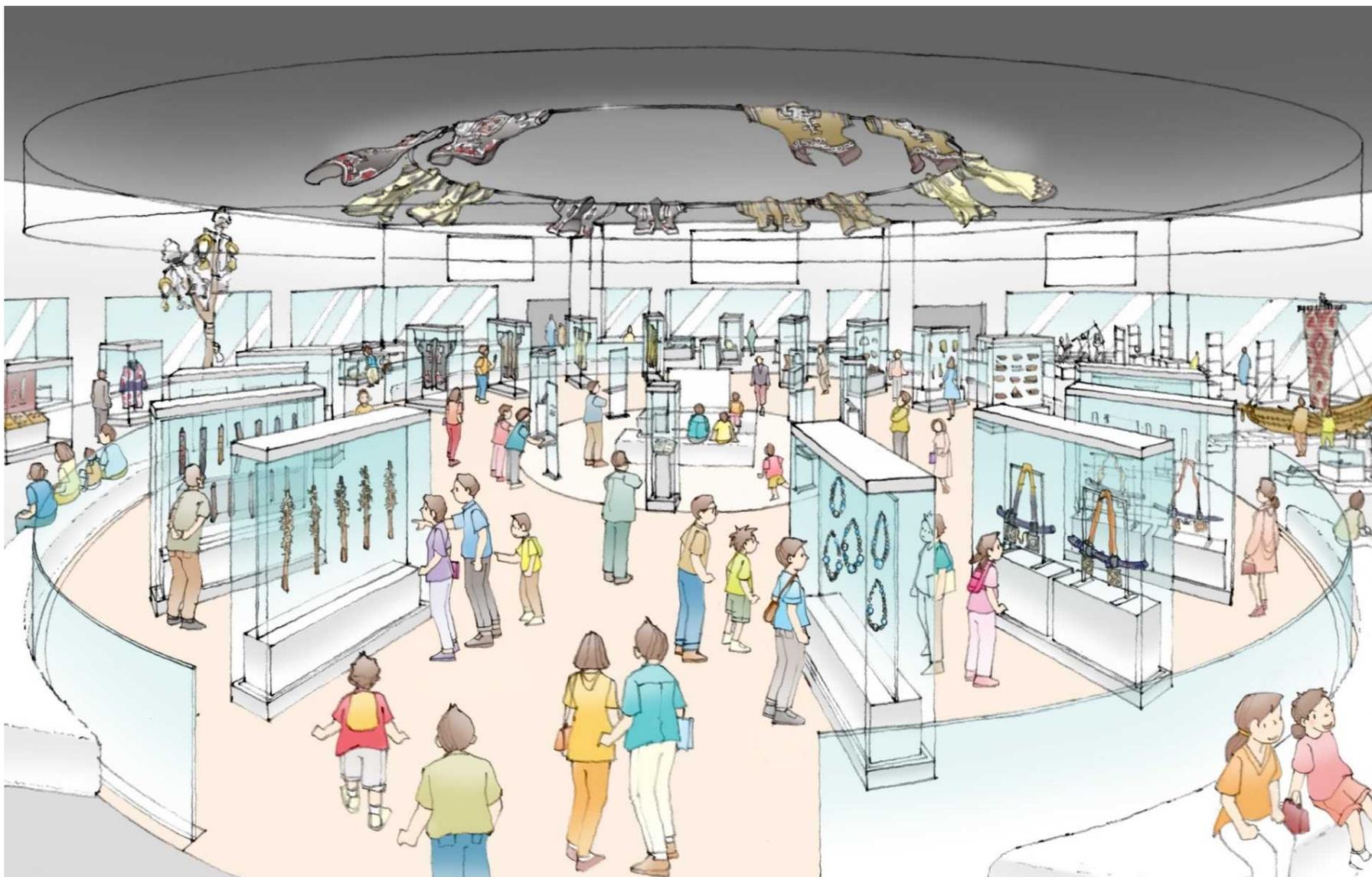
- 旧石器時代から現代までの時間軸、および周辺の人々との交流を含めた空間の広がり重視し、重要なトピックを取り上げながら歴史を紹介する

子供向け展示

- ゆっくり本を読んだり、体験キットやワークシートを使って楽しく学べる場を提供する

基本展示室 ゾーニング図

- プラザでは、各テーマの代表的な資料を象徴的に展示。展示の概要が把握できる。展示替えも可能。



【 基本展示室 プラザ部分 】

※本イメージ図は、基本設計段階における案であり、素材・色調等は実施設計により変更の可能性がある。

- わかりやすい展示をめざし、最新の映像・情報技術による展示や体験型展示など様々な手法を導入。



【 基本展示室 私たちの交流ゾーン 】

※本イメージ図は、基本設計段階における案であり、素材・色調等は実施設計により変更の可能性がある。